

## 令和4年度 平塚江南高等学校 不祥事ゼロプログラムの検証等

### ○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	成績処理及び調査書発行等進路関係書類に係る事故を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年に改善した点検マニュアルに則って業務を遂行することができ、新たな点検体制が十分に効果を発揮していることが確認できた。</li> <li>・ 進路関係書類の発行に際し、作成及び点検マニュアルに則った業務を遂行、事故防止を実現した。</li> </ul>
わいせつ・セクハラ行為の防止	わいせつ行為による不祥事を根絶するとともに、セクハラ行為のない職場環境をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ わいせつ行為による不祥事の根絶を目的とした研修会の開催及びセクハラ行為のない職場環境の実現に向けたアンケートを実施することができた。</li> <li>・ 表に出ていない案件が潜んでいるという前提で、引き続き検証を行う必要がある。</li> </ul>
入学者選抜に係る事故防止	入学者選抜業務に係る事故の発生を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入学者選抜業務に係るあらゆる事態を想定しながら事故防止についての共通理解を徹底するとともに、複数職員によるチェックを含む点検体制を再確認し、事故の未然防止を実現することができた。</li> </ul>
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	公務員・教育公務員としての意識を高め交通事故・法規違反を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 啓発資料を活用し、安全運転の意識向上を目的とした不祥事防止研修会を行った。</li> <li>・ 定期的に不祥事防止研修会を開催し、飲酒運転や交通法規違反等に関する注意喚起を行った。</li> </ul>
体罰、不適切な指導の防止	生徒への体罰、不適切な指導を根絶する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修を通じ、日頃から生徒の人権尊重に配慮した指導となっているか各自で振り返ることができた。</li> <li>・ 生徒の個人情報の取扱いについて適切な手続きを取り、SNS等の不適切な使用を防止することができた。</li> </ul>
会計事務等の適正執行	公費、私費ともに、会計処理上の事故・不祥事を未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会計伝票や会計報告の作成と起案については常に複数の目を通したチェックを行うことができた。</li> <li>・ 私費会計の取り扱いについて全職員を対象とした研修会を開催するなどし、目標は十分に達成した。</li> </ul>
個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報の管理を徹底、情報の漏洩や不正利用、紛失や誤廃棄などを未然に防止する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報セキュリティ対策に則り、個人情報等の管理を徹底することができた。</li> <li>・ USBメモリ等記録媒体の管理体制について常に点検を行い、適正な管理を行った。</li> <li>・ 職員全体の研修を行い、生徒の個人情報収集許可等に係る適切な手続きの徹底を図ることでSNS等の不適切な使用を防ぐことができた。</li> </ul>
法令遵守意識の向上（公務外非行の防止）	公務員として法令遵守意識、倫理意識の向上・徹底を図り、公務外非行を防止し、県民の信頼に応える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県の「職員行動指針」を周知徹底、公務員としての倫理意識の徹底と共有化を推進することができた。</li> <li>・ 職員啓発資料などを活用し、服務規律の徹底を目指した研修を行い、法令遵守意識の向上に努め、公務外非行の防止を徹底することができた。</li> <li>・ 風通しの良い職場づくりを推進し、日常的に職員同士がお互いに気付いたことを話題にできる環境を維持することができた。</li> </ul>

## ○ 令和4年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和5年度に取り組むべき課題 (学校長意見)

令和3年度末に、本校において発生した成績処理に関連した事故を踏まえ、緊急に点検マニュアルの見直しを進め、令和4年度は新たな点検体制のもとで成績処理業務を遂行することとなった。職員も一層の緊張感をもって成績処理業務にあたり、今年度は無事故で1年を乗り切ることができた。しかし、一度失った信用を取り戻すのは容易なことではなく、無事故である状態を、今後も積み重ねていくしかないと考えている。新たな点検マニュアルの実施はもちろんのこと、人事異動を経ても、教職員一同の緊張感を維持していく必要があるため、事故の教訓は折に触れて管理職から職員に向けて周知をしていく必要がある。

令和3年度の事故は、想定外の危機に対処する備えが職場内に共有されていなかったことが大きな要因であり、日頃から想定外の事故を起こしにくくする業務日程等を工夫する必要があると痛感させられた。また、日頃から締め切りに追われる業務が山積しているなかで、想定外の危機はいつ起こるかわからないという視点を常に持つこと、危機的な事態が出来しても慌てず、職場全体で事に当たることで、正しい対処方法を見つけることができること等の教訓を得た。

今後も、「いつでも事故は起こり得る」という想像力を持ちながら、組織的な業務執行、及び働き方改革を踏まえた業務内容の精選など、事故発生の未然防止に向け、更なる改善が重要であると考えられる。

令和5年度においても、職員一人ひとりが公務員による不祥事案件を自らの問題として意識することを目指して、定期的で開催している事故防止研修の内容をさらに充実させ、不祥事ゼロを実現する。特に、成績処理の事故防止に加え、職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）の防止については、全県下共通の最重要課題として捉えていく。職員間のコミュニケーションを一層豊かにしながら、風通しの良い職場環境づくりを目指し、公務外も含め、教育公務員として、法令遵守、倫理意識の向上と徹底に努めていく覚悟である。